

### 34 万葉植物園 —万葉集に詠われた植物がいっぱいです—

奈緒さん こんにちは。新学期がスタート、中学校最高学年の今年、いよいよがんばっておられることと思います。

もらったお手紙では、国語の時間に万葉集の短歌を勉強しているとのことでしたので、私が行ってきた「春日大社神苑万葉植物園」についてお知らせしておこうとペンをとりました。

先日、春日大社にお参りしたときには、本殿の「砂ずりの藤」がとてもきれいでした。この樹齢は700年にもなるという藤が「砂ずりの」と呼ばれているのは、この藤の花房が非常に長く地面の砂にすれるくらいだからです。

参拝した後、きっと万葉植物園の藤もきれいだろうなあと行ってみました。予想どおり「藤の園」は見ごろでとてもきれいでした。20種類で約200本もあるのだそうです。藤がこんなに多いのは春日大社の紋が藤の花であるからです。

この植物園には万葉集に詠まれた植物が300種も植えられています。全国に万葉植物園と名付けられた所は結構多いようですが、昭



和天皇の御下賜金をいただいて昭和 7 年(1932 年)に開園されたこの万葉植物園は最も古く、最も充実しているものといってよいでしょう。こんなふうに言うと、あなたからは「私の宇陀市にも『かぎろいの丘』がありますよ」としかられるかも知れませんが…。

ところで、万葉集に詠まれている植物はどんなものが多いのでしょうか。生物学が専門の高樋龍一先生の書「万葉植物の検索—その歌、その植物、その花と実と—」によると、チャンピオンは「はぎ」で 142 首、第 2 位は「うめ」で 118 首だそうです。第 3 位が「まつ」の 75 首、現在の植物名ではクロマツ、アカマツだと書かれています。中にはいろいろな説のあるものもあって「あさがほ」といわれているものはキキョウ、ムクゲ、アサガオ、ヒルガオ説があり、キキョウ説が有力だと述べられています。植物の名前も昔と今では異なるものがあるのです。そういえば、春の七草の「ほとけのざ」はホトケノザではなく、コオニタビラコです。そして、フジは第 12 位で 27 首だそうです。

植物園は、萬葉園、五穀の里、椿園、藤の園に大きく分けられていて、萬葉園にある池の中央の中ノ島には、幹が寝そべっている「臥龍（がりゅう）のイチイガシ」と呼ばれる木があって、これは奈良市の指定文化財になっています。

(平成 21 年 5 月・中学校 2 年生の奈緒さん宛て)

## スポットの案内

万葉植物園は奈良市春日野町 160 にあって、JR・近鉄奈良駅から市内循環バス外回りで「春日大社表参道」下車が便利です。

開園時間は 3 月～11 月が 9：00～16：30（17：00 閉門）、12 月～2 月は 9：00～16：00（16：30 閉門）、3 月～11 月は無休ですが、12

月～2月は月曜(ただし、祝日等と重なった場合は翌日)が休館です。  
入園料は大人 500 円, 小人 250 円です。社務所の電話は 0742-22-7788  
です。

### 理科のワンポイント「マメ科の植物」

植物の分類では、フジは種子植物, 被子植物門, 双子葉植物綱, マメ目, マメ科の植物です。だから、ダイズやアズキ, エンドウやササゲ, インゲンなど豆を食べる植物と同じなかまです。食べ物ではありませんが, スイートピーやレンゲソウもマメ科の植物です。

レンゲソウの花を観察してみましよう。1つの花だと思っていたのはたくさんの花の集まりです。それぞれを観察すると, エンドウやスイートピーなどの花と似ていますね。シロツメクサもこんな形の花が集まっています。これもマメ科の植物なのです。



マメ科の植物の根には根粒菌が共生しているものがあります。根粒菌は植物から栄養分をもらって, その体内で生きていくかわりに, 空気中の窒素が肥料として使えるように変化させ, 植物の役に立っているのです。このような植物の場合, 窒素肥料はあまり必要がありません。それどころか, 田畑に作物を植えない時期にレンゲソウやシロツメクサなどを植え, これらが取り込んだ窒素分を次に植える作物の役に立てようなどと工夫しています。肥料っ気のない, やせた土地にも茂っているマメ科の植物, すごいですね。